ヒロシマの記録

原爆資料館50年

被爆の姿 市民と伝える

広島市の原爆資料館は、「一九四五年八月六日」を刻む資料を通して訪れる人たちに平和を訴えてきた。また、原爆の威力と人間的な悲惨さをどう伝えるかとの今日に続く課題を背負い、時には批判にもさらされてきた。開館五十周年を記念して開かれる企画展「廃虚の中に立ち上がる—平和記念資料館とヒロシマの歩み」（七月十一日—十二月十八日）を前に半世紀の足跡をたどり、課題を考える。貴重な資料の持つ意味と、中国新聞社が保存する関連の記録写真を紹介する。（文　編集委員・西本雅実、資料撮影　宮原滋）

資料館の歩みは、中区基町にあった旧中央公民館の一室にさかのぼる。四九年に設けられた「原爆参考資料陳列室」がそれだ。地質学者の長岡省吾さん（七三年死去）が原爆投下の翌日から収集した瓦や岩石などを基に開設され、市の嘱託として管理した。原爆で何が起きたのか—。資料を通じて客観的に伝える長岡さんの考えが、米軍占領下の時代に「部屋は小さくても、世界随一の収集室」を実現させた。

その年、「広島平和記念都市建設法」が公布され、爆心地となった旧中島地区を平和記念公園とし、資料館の建設が決まった。着工は五一年。国の補助率は他の戦災都市の事業より引き上げられたが、市の財政難で翌年にストップ。丹下健三さん（今年三月死去）の設計によるモダンな建築物は、向かいの光景が素通しで見えたことから「鳥カゴ」とやゆされた。遅々とした復興の歩みを象徴した。

工事の再開は被爆十周年を控えた五五年三月。八月六日に完成をみたが、内装の仕上げが残っていたため正式開館は二十四日にずれ込んだ。

被爆資料の大掛かりな展示に心身の傷が生々しかった市民の反応は複雑だった。被爆者でもあった浜井信三市長（六八年死去）自らが「残酷な思い出をよみがえらせ苦痛を与えているという」との声を紹介し、美術館転用への考えを開館五周年の夏に述べているほどだ。被爆した姿を再現したロウ人形の展示をめぐっては論争も起きた。

また当初は「原子力平和利用博覧会」（五六年）の会場となり、「広島復興大博覧会」（五八年）でも、米国政府が提供した原子炉の模型などを展示。それらの資料を展示から撤去したのは六七年。原爆の惨禍を見据える資料館の性格はこの時期から固まった。

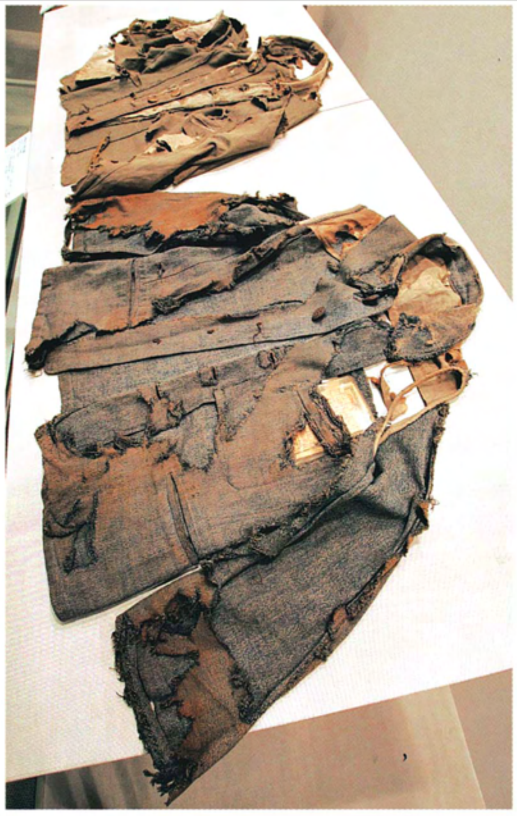
八〇年代後半になると「軍都」広島の「加害性」をめぐる展示を求める声が、韓国・朝鮮人の被爆と絡めて地元でも高まる。平和記念館を取り壊して九四年にできた資料館東館で、原爆以前の歴史の一端に触れるが、中国を含めての厳しい批判をぬぐえていない。

入館者は昨年度まで二十六年続いて百万人台を維持する。とはいえ、資料館が全面改装した最多の九一年度（百五十九万三千余人）と比べて昨年度は33％の減。海外からの入館者は増え、十万人台になっているのに、皮肉にも国内が落ち込む。「戦後」も歴史になる時代風潮の中で、被爆への関心が薄れている。

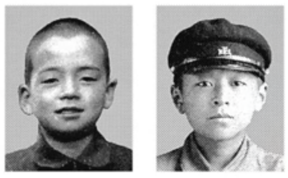
母の胎内で被爆した畑口実館長（五九）は「人類と核兵器は共存しえない。その原点を押さえ、さらに子どもたちが学び実感できるよう努めていきたい」と言う。延べ二千五十四平方㍍の展示の在り方など「更新計画」の素案を近くまとめる予定だ。

原爆資料館は、先人たちが苦闘して礎をつくり、遺族らの資料提供で充実が図られた。市民が育ててきたといえる。インターネットで収蔵資料約一万九千点の情報を紹介する今、英語による発信が急がれる。中国語、韓国語などにも広げていきたい。ヒロシマを世界に届ける営みとして。

同級生の制服

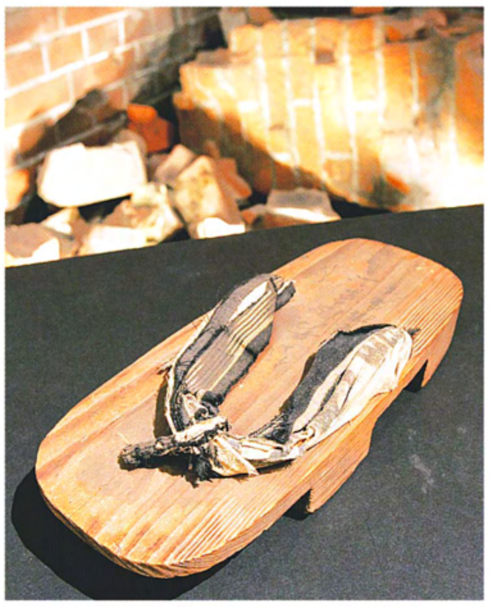


県立広島二中1年2学級の谷口勲さん（13）＝**手前の制服、顔写真左**＝と5学級の西本朝彦さん（12）＝**奥の制服、同右**＝は、建物疎開作業に動員された中島新町（現在の平和記念公園）で被爆した。西側の土橋電停前の防空ごうまで逃げていたのを谷口さんの父と兄が6日夜見つけ、己斐町（西区）の自宅まで

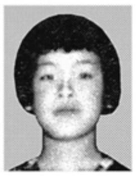


連れ帰ったが、西本さんは7日未明に「お母さんに知らせて」と言って、谷口さんは自宅近くの山に運ばれる途中の昼すぎに「だんだん近くなって来たね」を最期の言葉に死去。谷口さんの制服の胸ポケットにのぞくのは手書きの時間割表。「二中学徒隊」1年生の321人が犠牲となった

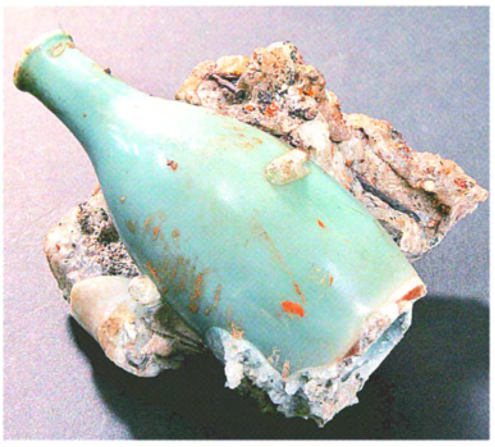
女学生の下駄



広島市立第一高女1年2組の大杉美代子さん（13）＝**顔写真**＝の遺骨は不明で、45年10月ごろ動員作業現場跡で下駄だけが見つかった。母が自らの着物で作った鼻緒から識別。左足の足跡が今も残っている。市女1年生と2年生は、木挽町（平和記念公園南側の平和大通り）一帯で空襲に備えて防火地帯を設けるため取り壊された家屋の後片付けをしていた。1年生は277人、2年生は264人が亡くなった

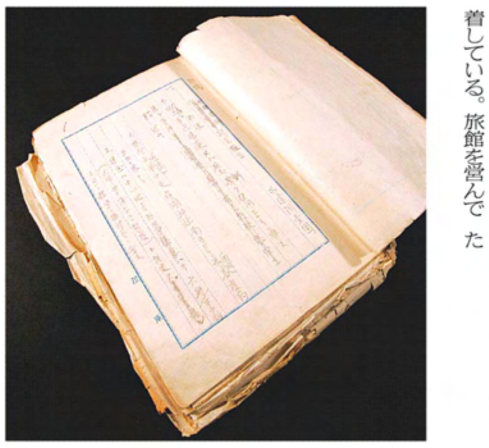


熱線のすさまじさを伝える銚子



原爆投下の目標となった相生橋の南、中島本町の福亀旅館跡（平和記念公園の「平和の鐘」付近）で見つかった。熱線は爆心地の地表では3000度を超え、銚子には溶けたガラスなどが付着している。旅館を営んでいた両親と祖父母、姉ら肉親6人を一度に失った福島和男さん（73）＝広島市佐伯区＝は昨年、この遺品を携えて広島世界平和ミッションの中国と韓国への旅に参加し、体験を証言した

原子爆弾ナリト認ム

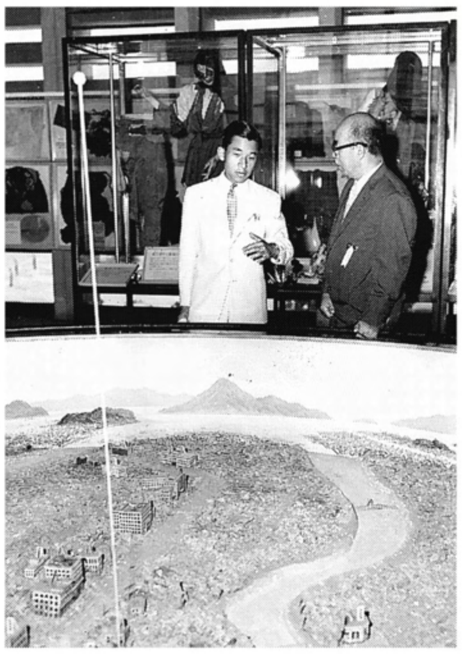


広島に投下された「特殊爆弾」を原爆と公式に判定した大本営派遣調査団の報告書素案。原爆投下2日後の8月8日に広島入りした物理学者の仁科芳雄博士らからなる調査団は10日、広島陸軍兵器補給廠（現在の広島大霞キャンパス）で開いた京都大調査団との合同会議で、「本爆弾ノ主体ハ普通爆弾又ハ焼夷剤ヲ使用セルモノニ非ズ　原子爆弾ナリト認ム」と結論付けた

記帳するローマ法王

この4月に死去したヨハネ・パウロ2世は原爆資料館を見学後に「『私の思いは平和の思いであって、苦痛の思いではない』と神はいわれる」と記した

（1981年2月25日撮影）



廃虚を再現したパノラマの前に立たれる明仁皇太子

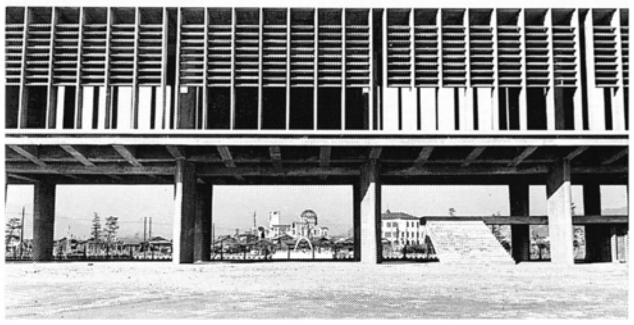
被爆15周年に広島市と広島県が初めて共催した平和記念式典に参列され、翌日には原爆資料館を見学された。当時の記事によると、約40分間にわたり、熱線で人影を残した万代橋の写真、被爆瓦も熱心にご覧になられた。右は初代館長の長岡省吾さん

（1960年8月7日撮影）

被爆資料を見る若き作家たち

日米安全保障条約の改定をめぐる安保闘争で国内が騒然となった1960年、戦後民主主義の旗手と目された文化人らが集った「若い日本の会」の中心メンバーが広島を訪れた。左から大江健三郎、広島出身の桂芳久（故人）、開高健（同）、城山三郎さん。大江さんは63年に再訪し、「ヒロシマ・ノート」を発表する

（1960年8月6日撮影）



広島の復興を象徴した原爆資料館の建設

建物正面に立つと、原爆慰霊碑、原爆ドームが一直線に見えるよう設計され、コンクリート打ちっ放しの建築物は市民らの目を引きつけた。一方、遅々とした復興を伝えるように平和記念公園内には被爆者らのバラックが広がり、工事も資金難のため3年間中断した

（1952年8月2日撮影）

原爆資料館の歩み

1948・6・—　広島市が原爆資料収集のため市民から石、瓦などのリストを募集
49・8・6　市が募集した平和記念公園設計コンペで、丹下健三氏（東京大助教授）が代表の作品が採用に。百メートル道路の正面中央に平和記念館、廊下で記念館本館と集会所を結ぶ案
9・25　市基町の中央公民館内に原爆参考資料陳列室を開設＝**写真**

51・3・—　平和記念公園建設の第1期工事として、記念陳列館（原爆資料館）が着工
55・8・6　原爆資料館が完成
8・24　開館。資料100点を展示。初日から600人でにぎわう。初代館長は長岡省吾氏
56・5・26　広島原子力平和利用博覧会の開会式。原爆資料館と東隣の平和記念館に原子炉の模型などを展示。22日間で約10万9500人が入場
58・4・1　広島復興大博覧会始まる。原爆資料館に展示された原子力商船の模型、アイソトープを扱うマジックハンドなどが市民の目を引きつける
62・1・30　長岡省吾館長が退職。所有の被爆資料1500点を市に寄贈
8・2　映画「ひろしま」（関川秀雄監督）の一場面の展示が判明、撤去。館員がパンフレット掲載の映画写真を引き伸ばし陳列
65・4・5　原爆資料館がソ連レニングラード国立博物館と米ウィスコンシン州の高校に被爆資料を送る。海外への資料提供は初めて。焼けた竹、瓦など
6・6　館内に原爆文献センター「原爆記念文庫」が開設。広島原爆資料保存会を中心に1500点収集
67・5・—　市が原爆資料館の展示から原子力平和利用関係の資料を撤去。「ヒロシマの悲惨さを訴え、平和の尊さを学ぶ場」という性格づくりの第一歩
69・6・—　被爆直後の市街地パノラマを作り替える基本設計に着手。57年完成のパノラマは老朽化。11月に除幕
70・6・21　市が企画した原爆記録映画「ヒロシマ原爆の記録」撮影が原爆資料館で始まる
71・2・2　住友銀行広島支店前の石段に刻まれた「死の人影」が支店改築に伴い、原爆資料館に搬入
8・6　総理として初めて平和記念式典に参列した佐藤栄作首相が原爆資料館を見学▽市編集の「広島原爆戦災誌」第1巻が刊行。原爆資料館主査の小堺吉光氏が執筆
72・4・1　開館以来据え置きの入館料大人20円が50円、子ども10円が30円に（現在も）
6・19　中島地区（平和記念公園）の復元銅版地図が旧住民遺族らの手で完成、北側ロビーに取り付けられる
73・1・22　「最近寄贈を受けた被爆資料」コーナーを設け、24点を展示。前年8月被爆資料の寄贈を呼び掛けた成果
7・30　原爆資料館に3体の被爆者ロウ人形の据え付け始まる。「つくり物」をめぐる論議が起きる
74・12・1　外装工事のため3カ月の休館
75・8・1　開館以来20年ぶりの大改装を終え、新装開館。外光遮断や館内照明を下げて被爆資料の保存対策に留意。入館者は1週間で5万人を超える
76・6・26　広島・長崎平和文化都市提携記念事業として広島原爆資料館に「長崎コーナー」がオープン
77・3・26　広島市とアウシュビッツ市の両市長が原爆資料館とアウシュビッツ国立博物館の姉妹縁組提携で合意
79・8・1　資料の貸し出しを始める。被爆資料は5917点
12・4　原爆資料館に少年が黒色塗料で落書き
80・10・—　入館者が開館以来2000万人を突破。10月末で2034万6810人に
82・3・17　「被爆証言コーナー」設置。被爆者8人の体験をテープで流す
4・1　高校生の団体（20人以上）の入館を無料に。ヒロシマ学習普及を目指す
85・10・7　市が原爆資料館に保存する被爆資料約5300点の写真付き所蔵台帳の作成を開始
87・5・18　修学旅行で訪れた大阪市立中島中、同淡路中の生徒らが「なぜ朝鮮人が広島にきて被爆したかを示す資料展示を」と原爆資料館に申し入れ
10・—　市が原爆資料館・平和記念館に日本のアジア諸国侵略の加害責任を問うコーナー設置を決める。14の市民団体の申し入れに回答
88・2・24　入館者が通算3000万人を突破。外国人は81年度の8万8000人を最高に年間7万人前後
7・—　原爆資料館が点字パンフレットを市民ボランティアの協力で作製。「原爆被害の概要」など3種類
90・2・23　原爆資料館と平和記念館の改修工事で、市が「加害者コーナー」設置に消極的な意向を伝える文書を右翼系団体に送っていたことが判明
3・31　原爆資料館の改装に伴い、展示被爆資料を平和記念館に移設。翌1日、仮展示場オープン
91・8・1　原爆資料館が改装オープン。戦後世代向けに映像や模型を駆使してビジュアル化を図る。初日の入館者は5400人
92・4・14　被爆直後の市街地を伝える3代目のパノラマが完成し、2代目を本川小の「本川平和資料館」に移設
4・24　入館者が91年度開館以来最高の159万3280人（04年度現在でも最高）
94・6・1　平和記念館を取り壊した、原爆資料館東館の建て替え工事が終わり開館。広島の歴史と戦争とのかかわりを中心に展示。総工費79億円
7・4　市民団体「前史展示連絡会」が、東館の展示内容について「侵略性についての表現が不十分」と市に要望
95・2・10　米スミソニアン航空宇宙博物館の原爆展中止について、市が原爆資料館で被爆者から「意見を伺う会」
5・20　明仁天皇が即位後初めて、皇后と原爆資料館を見学
7・8　市主催の初の「海外原爆展」が米ワシントンDCのアメリカン大で始まる。以降、04年度まで11カ国・24都市で開催
96・8・28　市と平和文化センターが主催する「ヒロシマ原爆展」が新潟市で。以降、04年度まで国内27都市で開催
12・10　中国・南京市からの「南京大虐殺記念館」の朱成山館長と生存者らが原爆資料館を見学し、「原爆投下の原因追究が不十分だ」
97・8・3　原爆資料館で保存される全1万1837点の被爆資料の記録・検索台帳が3年がかりで完成
98・4・1　市が原爆資料館の管理運営を、市の外郭団体である平和文化センターに委託
99・3・29　原爆資料館初の図録「ヒロシマを世界に」が完成。被爆資料の写真や図版430点を掲載
12・8　収蔵資料や文献など約4万6000件を検索できる「平和データベース」をインターネットで発信
2002・8・1　原爆資料館の「音声ガイド」が更新され、俳優の吉永小百合さんがナレーションを担当
04・11・30　被爆者が描いた「原爆の絵」約3800点などをホームページで発信

＜「年表ヒロシマ」（中国新聞社刊）などを基に作成＞